

☆ 巢 子 自 治 会 ☆



昭和50年4月、字名「巢子」の一部と「狼久保」の一部をもって発足した当自治会は、その後、南巢子自治会の発足に伴い、3自治会が分離し、現在は10町内会、約1,950世帯の規模となっています。平成20年には、大幅な組織体制の検討を行い、専門部の統廃合により10部門を5部門に集約し、一部の事業の見直しも行い、平成21年4月より新組織がスタートしました。また、当自治会では、子どもたちを「地域の子ども」として見守り、保護者・学校の方々と共に育てていこうと考えています。その一つの手立てとして、子ども会育成会との懇談会を行い、お互いの意見や要望を話し合い、大人が主体となって進める行事ではなく、小・中学生も参加して一緒に作り上げていく行事を増やしていくよう、進めているところです。

【主な活動の紹介】

「夏まつり」は、自分たちもまつりを作る一人として参加する「夏まつり」として一から企画を練り直しました。子ども会育成会による出店を呼び掛け、準備から当日の運営までを担当してもらいました。また、地域の老人施設の駐車場を会場としてお借りすることで、入所されている皆さんにも楽しんでいただくことができました。

次に、毎年1月に行っている「文化伝承大会」では、凧や割りばし鉄砲、ミズキ団子を作ったり、お手玉やコマ回し、羽つきなどの昔から伝わる遊びをしたり、餅つきをしています。今では、子ども会の冬の行事として定着してきており、子どもたちと地域の人々の交流の場となっています。

そして、「お祭りのある地域づくり」「子どもたちに夢と思い出のある故郷づくり」をしたいとの思いで始まった「滝沢山車まつり」は、今年で17回を数えます。南巢子自治会・長根自治会と三自治会の主催で開催されるこのおまつりは、巢子地域の秋まつりとして地域の皆さんに親しまれています。秋空の下、地域を練り歩く風流山車は、実に見応えがあります。

「村民体育祭」には、毎年、全種目出場し、一丸となって挑み、上位入賞を果たしています。他にも、「町内会対抗親睦大運動会」「男女別ソフトボール大会」「敬老会」「親睦旅行」などを通して地域の交流を図っています。

【自主防災会と東日本大震災】

平成18年7月に発足し、組織作りや資機材の準備を進めてきました。毎年2～3回救命講習を行ったり、消火訓練や防災体験を行ったりして、会員の知識

の習得、防災に対する意識の高揚に努めてきました。

3月の東日本大震災発生時には、災害対策本部を設置し、町内会長による各町内の見回りをし、高齢者世帯や一人暮らし世帯の安全確認を行いました。また、村指定の避難所への搬送を行うなど、地域住民の安全確保に努めました。

しかし、対策本部として機能させるには、まだまだ不備な点が多いことが分かりました。今後は、自主防災会としての役目や自主防災会としてできることを検討・整理していく必要があると感じました。

【これからの自治会のあり方と課題】

時代の変化とともに、個人の生活スタイルもさまざまに変化してきています。また、地域との関わりが薄れてきているのでは、とされている中で、顔の見える地域づくりを進めていくことは重要で不可欠だと思います。日頃から地域の交流を図っておくことは、自主防災を考えるときに根幹ともなる事柄の一つと言えると思います。

そのためにも、皆が参加しやすく、活動しやすい組織作りや行事の見直し等が必要となり、今後の自治会活動の課題と言えます。

また、世帯数の割には手狭となってきている公民館や集会所に代わるコミュニティセンターの早期着工や通学路の整備等についても引き続き、各機関に働きかけていきたいと思っています。

